

日英災害研究ワークショップ『地震と津波に関する総合リスク・不確実性評価』に参加しました(2016/8/1)

テーマ: 総合防災, 地震工学, 津波工学
場所: 駐日本国英国大使館

2016年8月1日, 駐日英国大使館にて, 日英災害研究ワークショップ『地震と津波に関する総合リスク・不確実性評価』が開催されました。この日英災害研究ワークショップは, 活用中のネットワークを強化し, 将来的に総合災害モデルを構築し, 巨大地震・巨大津波評価分野において新たな連携をはかることを目的として, プリントン大学(英国), 京都大学, 東北大学の地震工学・津波工学分野の専門家が共同して開催されました。また本ワークショップの研究テーマは, UK-EPSCRC より資金提供頂いた CRUST (Cascading Risk and Uncertainty assessment of earthquake Shaking and Tsunami) プロジェクトの活動に深く関係しており, 背景には, 災害に関する日英の大学(京都大学, 東北大学, プリントン大学, ロンドン大学)による活発な共同研究があります。ワークショップでは約30人の参加者があり, それぞれの研究活動について発表されました。災害科学国際研究所からは, 災害リスク研究部門の今村文彦教授(所長), 越村俊一教授, サッパシー アナワット准教授(開催協力者), ラチャロットパーノン研究員の4名が招聘され, 参加しました。当研究所所属研究者による発表は, 以下の通りです。

1. 今村文彦, サッパシー アナワット: Role towards international DRR: experiences and actions of IRIDeS, Tohoku University
2. 越村俊一: Advances of real - time simulation, remote sensing, and geo - informatics in assessing tsunami impact



今村教授による発表の様子



ワークショップ参加者の集合写真

文責: サッパシー アナワット (災害リスク研究部門)